



■第25回聖路加看護学会学術大会 開催報告



第25回聖路加看護学会学術大会を終えて

第25回聖路加看護学会学術大会は、新型コロナ感染拡大により一旦延期させていただいた後、2021年2月20日(土)～3月5日(金)に、本学会で初めてオンライン(オンデマンド)で開催いたしました。短い期間での

準備となり、ご不便、ご負担をおかけしましたが、おかげ様で充実したプログラムと、40演題(卒業研究含む)もの一般演題発表がありました。参加者が少ないのではないかと心配しておりましたが、147名(会員75名、非会員39名、学生33名)もの方にご参加いただきました。この成果はひとえに、理事会、企画・実行委員の皆様、聖路加国際大学、聖路加国際病院はじめ、ご参加くださいました多くの皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本大会は、テーマを、「すべてのひとの発達に関わる看護- その人らしい豊かな経験を支える-」としました。ひとびとのその人らしさを支え、豊かな経験を支える中で、看護がすべての人々の発達に関わっているという考えからです。大会長講演では、子どもや家族が主体として意味づけ変化していく、発達の過程を探った過去の研究をご紹介します。教育講演は、久保田まり先生により「アタッチメントの生涯における機能」についてご講演いただき、人生を通じて重要とされるこの概念の理解を深め、看護の役割についても示唆を得ました。特別講演は、戸枝陽基先生による「どんな人もそのひとらしくやりたいことを」のテーマで、社会福祉法人むそうの実践から、どんなに重度の障害をもっていても、その人らしく社会参加でき、どんな人もそれぞれがその人らしく一緒にいられる場や町をつくっていく実践の過程と、さらにそれを制度化していくためのエネルギーな活動についてお話いただきました。

シンポジウムは、「豊かに生きるための意思決定支援」をテーマとし、『遺伝看護の支援』(御手洗幸子先生)、『移行支援』(落合亮太先生)、『がん看護の支援』(高橋美賀子先生)について臨床での実践内容、ガイドラインや体制づくり、研究結果などをご紹介します。それぞれの先生が「豊かに生きる」をどうとらえているかが伝わるような意思決定支援のお話しをしていただきました。質疑応答によりさらに、興味深い内容が現れてきて、このプログラムには時間超過分のおまけのディスカッション記録もつけさせていただきました。共催セミナー(佐藤製薬)では、「痛みの少ない針穿刺をめざして」(吉田奏先生)により国内外の研究結果などから新たに痛みの看護を考える機会をいただきました。ミニ講座は、興味深い講座を全部聞けるという、オンデマンド配信のメリットを生かし、「システムティックレビューを学ぼう」(大田えりか先生)、「認知症とともに生きる人を支える」(滝口美重先生)、「あなたに最適なマスク」(大西一成先生)、「COVID-19に向き合う感染対策」(坂本史衣先生)の4講座を

開催しました。多くの方の視聴があったようです。一般演題は、多彩なテーマでのご発表をいただきました。今回より、筆頭発表者以外は非会員でも発表登録可能になったこともあり、多機関での研究を出していただけたことは、内容の充実につながったと考えます。開催時期の関係で学部4年生も卒業研究を発表しましたが、卒業後の活躍が楽しみな内容ばかりでした。

アンケート調査その他より、おおむね全体のプログラムにはご満足いただけたと評価できました。今後も遠方でも参加できるWEB 学術大会の形式を望む回答が多くありました。アクセス数から見ると、2週間という期間があっても、参加者は全部ではなく、関心のあるプログラムを視聴していることがわかりました。また今回設けた質疑応答のシステムは多く使用できたとはいいがたい結果となりました。

よい点も課題も見えた今回の学術大会ですが、参加された方が新しい知見を得たり、看護の見方を変える機会となったとしたら、たいへん幸せに思います。最後にもう一度、皆様に深く感謝申し上げます。

第25回 聖路加看護学会学術大会

すべてのひとの
発達に関わる看護
— その人らしい
豊かな経験を支える —

WEB開催
になりました

開催日: 2021.2.20sat. 配信 2021.2.20-3.5

大会長 平林優子 (信州大学学術研究院保健学系)

■ 教育講演 「アタッチメントの生涯における機能—研究的視点から」
久保田まり (東洋英和女学院大学大学院 研究科長)

■ 特別講演 「どんな人もそのひとらしくやりたいことを」
戸枝陽基 (社会福祉法人むそう理事長)

■ シンポジウム「豊かに生きるための意思決定支援」
遺伝看護の支援 御手洗幸子 (NTT東日本関東病院 遺伝看護専門看護師)
移行支援 落合亮太 (横浜市立大学 がん・先端成人看護学准教授)
がん看護の支援 高橋美賀子 (聖路加国際病院 がん看護専門看護師)

■ 共催セミナー (佐藤製薬) 「痛みの少ない針穿刺をめざして」
吉田奏 (聖路加国際病院 周麻酔期看護師)

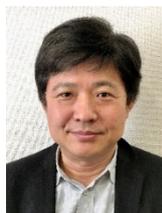
■ ミニ講座
・ システマティックレビューを学ぼう 大田えりか (聖路加国際大学大学院 教授)
・ 認知症とともに生きる人を支える 滝口美重 (聖路加国際病院 訪問看護認定看護師)
・ あなたに最適なマスク 大西一成 (聖路加国際大学大学院公衆衛生研究科准教授)
・ COVID-19に向き合う感染対策 坂本史衣 (聖路加国際病院 感染管理室マネージャー)

■ 特別企画 聖路加国際大学WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター30周年記念

登録期間 演題登録: 2020年10月15日~12月21日 終了しました。
参加登録: 2021年2月28日 (日) まで (延長しました)

[第25回聖路加看護学会学術大会事務局]
聖路加看護大学看護学部小児看護学 e-mail: 2020slnr25@slcn.ac.jp

■第26回聖路加看護学会学術大会 大会長挨拶



メインテーマ:「意思決定と健康と Well-being」

第26回聖路加看護学会学術大会は2021年11月にオンラインで開催することとなりました。メインテーマは「意思決定と健康と Well-being」です。患者や市民中心のケアにおいて、重要なキーワードは、今だ日本ではゴールに掲げられることが少ない「情報と価値観に基づく意思決定 (informed and value-based decision)」です。

そして、これを「見える化」することは、看護で大切にしてきた「その人らしさ」をより明確にすることにつながると考えています。しかし、誰もが「その人らしく」あるために、自分で意思決定する方法について学び、「意思決定できることが幸せ」だと感じ、それを互いに支援して喜びあう機会に十分恵まれていないと思います。大会までに、これらについてより明らかにする研究を進め、報告する予定です。

教育講演では、大坂和可子先生(慶應義塾大学)に、医療従事者によるディシジョンエイドの開発・普及・教育についてご自身の研究、ご経験を交えてお話しいたします。特別講演では、健康生成論とストレス対処力概念 SOC の看護実践における応用について、戸ヶ里泰典先生(放送大学)にお話しいたします。シンポジウムでは、様々な臨床分野で開発・実用されているディシジョンエイドの現状、普及への課題について、様々な分野の専門家にお集まりいただき、議論します。一般演題(口演・示説)では会員の方々にぜひ多くの知見をご発表いただきたいと思っております。

この学術大会を、活発な意見交換ができ、相互に刺激し合える学びの場にしたいと考えております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(第26回学術大会長 中山和弘・聖路加国際大学大学院看護学研究科
看護情報学分野)

第26回

聖路加看護学会学術大会

会期: 2021年11月1日(月)~11月30日(火)

会場: オンライン開催



第26回大会ホームページ

<https://www.slnc26.net/home>

■学術交流委員会より

～実践科学研究助成基金 2021 年度「研究助成」採択結果～

「看護実践科学研究の推進を目指し、看護実践の向上と看護学の発展に寄与すること」を目的とした「一般社団法人聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金制度」による 2021 年度助成対象研究の募集を行い、複数の方からご応募をいただきありがとうございました。

選考委員会の審査を経て、以下の 2 名の方が採択されましたのでご報告いたします。
みなさまの研究のご発展を心より祈念いたします。

一般社団法人聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 2021 年度「研究助成」採択者

■代表者名：山田 露子

研究課題名：妊婦の胎児ボンディング（情緒的絆）障害の要因探索：妊娠初期から産後までの縦断研究

■代表者名：津田 泰伸

研究課題名：院内迅速対応システム：RRS (Rapid Response System) が起動された患者の退院時までの身体状況・看護必要度の特性把握

(担当：吉田俊子)

**一般社団法人聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金
2021 年度「研究助成」のお知らせ**

学会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

一般社団法人聖路加看護学会では、「看護実践科学研究の推進を目指し、看護実践の向上と看護学の発展に寄与すること」を目的に、研究助成基金制度を実施しています。

応募期間および申請手続きは下記の通りです。

応募の詳細につきましては、学会ホームページにアクセスし、2021 年度「研究助成」募集要項、「研究助成」細則をご参照ください。

2021 年度より、助成額は総額 30 万円に増額となりました。

多くの皆さまのご応募をお待ちしております。

記

応募期間：2020 年 12 月 1 日（火）～ 2021 年 1 月 29 日（金）必着

申請手続き：学会ホームページより申請書をダウンロードし、
学術交流委員会宛に郵送してください。



一般社団法人聖路加看護学会 学術交流委員会
委員長 吉田俊子

～学術交流集会

「コロナ禍で患者・家族のヘルスリテラシーを高める」開催報告～

2021年2月28日(日)にZoomを活用したオンライン学術交流集会を行いました。参加者は22名で、コロナ禍において患者・家族への支援をしている看護職、大学教員、看護学生といったさまざまな背景の方々と遠隔交流する機会となりました。

まず、中山和弘先生(聖路加国際大学大学院教授)からヘルスリテラシーの基礎知識に関する話題提供をいただいた後、3グループでのグループトークを行いました。その後、グループトークでの討議内容を共有するため、グループファシリテーターが発表し、全体での質疑応答を行いました。看護学生グループからは、学生への感染予防を呼びかける難しさ、患者がどのような情報を求めているのか見えないこと、情報に関する相談窓口が明確になっていないことが挙げられました。現場の看護職グループからは、コロナ対応に伴う業務過多や面会制限などで、患者や家族が十分に情報を咀嚼できないまま意思決定を迫られている現状、地域生活を送る高齢者への情報提供に関する取り組みが紹介されました。大学教員グループからは、コロナ関連のマスコミ報道の伝え方に関する疑問と正しい情報を判断する重要性、看護の視点での感染対策について、動画等で発信する提案などがありました。最後に、中山先生からヘルスマーケティングの必要性、その上で、誰を・何を信じたらいいのかを見極める力が重要であるとのコメントをいただきました。

交流集会後のアンケート結果からは、「遠方なので、オンラインだと参加しやすい」「オンラインの方が発言しやすい」といったオンラインのメリットを感じられている様子がうかがえました。また、グループトークでじっくり討議できたという意見もあり、少人数で交流できたことへの満足感も得られていたようでした。

また、今回の学術交流集会に参加した看護学生から、「看護学生がこのような学術交流会に参加する機会は貴重であり、実際に現場で働いている方々や教員の方、そして同じ学生がどのような苦悩を持ち、それに対処しているのかということを知ることができました。この貴重な経験を、今後の学生の糧とし、さらに現在行っている、感染予防行動の啓発活動に存分に生かしていきたいと考えております。(宮城大学看護学群 千葉菜月実)」との感想をいただきました。現在、彼女は、本学術交流集会での気づきを学内の啓発活動チームと共有し、学生に向けて「これだけは守ってほしいこと」を理解してもらうための活動を検討しています。若い世代が新型コロナウイルスの感染対策に積極的に取り組んでいる姿はとても頼もしく見えます。このような草の根活動により、少しでも地域住民のヘルスリテラシーを高めることにつながることを願っておりますし、今後も共に取り組んでいきたいと考えています。ご参加くださった皆様、中山和弘先生、ありがとうございました。

(担当:大熊恵子)



■選挙管理委員より ～評議員選挙のお知らせ～

今年度は選挙の年です。理事の任期が終了するにあたり、評議員の中から理事を選出します。監事の変更はありません。選挙告知は、ホームページに掲載を予定しています。

また、2021年4月に選挙管理委員が交代しました。高橋恵子(委員長)、永井智子、西村恵理奈の3名で進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(担当:高橋恵子・永井智子・西村恵理奈)

■学会誌編集委員会より ～論文の投稿をお待ちしています～

聖路加看護学会誌では、総説、論説、原著、研究報告、実践報告、資料となる論文の投稿をお待ちしております。2022年1月発刊の25巻2号の投稿締め切りは2021年5月末です。なお、2022年度からは投稿締め切りは廃止となり、査読終了後に随時発刊(年4回の予定)となります。

また、メディカルオンラインのIDとPWは毎年度更新されます。2021年度分を別紙(郵送)にてご案内しておりますのでご活用ください。

(担当:有森直子)

■庶務より ～ご連絡先の変更をお知らせください～

新年度を迎える時期、ご所属、住所、メールアドレスなどが変更になる方がいらっしゃると思います。大変お忙しい中恐縮なのですが、その際は、学会事務局までご連絡ください。

会員の皆様には引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

(担当:大久保暢子、森田誠子、西垣佳織)



■会計より ～2020 年度会費納入率と 2021 年度会費振込のお願い～

2020 年度の会費納入率は 73.7%となり、昨年度よりアップいたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

今年度(2021 年度)の会費納入がお済みでない方は、下記口座にお振込みをお願いいたします。

=====
振込先:郵便振替口座
口座番号:00100-8-670371
加入者名:一般社団法人 聖路加看護学会
=====

学会の活動は皆さまの会費収入で成り立っております。学会誌の電子ジャーナル化や学術大会のオンライン開催など、社会情勢に合わせて学会活動にも変化がありますが、聖路加看護学会として充実した活動を継続できるよう、引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

今期会計年度は 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日です。

(担当:平林優子、小林真朝)

■編集後記

2021 年度初回の 53 号は、初のオンライン開催になった第 25 回学術大会報告から、引き続きオンライン開催予定の第 26 回大会の案内などを掲載いたしました。新型コロナウイルス感染症流行も 2 年目に入りますが、歩みを止めることなく様々な活動がオンラインなどで行われています。また対面で会員同士が気兼ねなく交流できる日常が戻ってくるまで、多方面の活動をこの場で伝え続けていく所存です。新型コロナウイルス感染症とは別に、今年は例年になく梅雨入りが早く、全国的に曇天が長くなりそうです。どうぞ皆様ご自愛下さい。



(担当:瀬戸山陽子 佐居由美 大橋久美子 竹森志穂 松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメーリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 slnr@slcn.ac.jp までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.53

- ▶ 発行 : 2021 年 5 月 31 日
- ▶ 編集 : 広報委員会 (瀬戸山陽子 佐居由美 大橋久美子 竹森志穂 松尾尚美)
- ▶ 連絡先 : 〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <http://slnr.umin.jp/>